

平成22年度事業報告書

自 平成22年4月1日
至 平成23年3月31日

事業概況

年度当初より日本経済は持ち直しつつあると見られていたが、失業率の高水準、円高、デフレの継続等で足踏み状態に加え、平成23年3月に発生した東日本大震災により戦後最大の危機に直面した。

航空界も、新型インフルエンザの影響等を受けた平成21年度と比較すると、成田空港、羽田空港の発着枠の増加等による旅客需要の回復や、経費節減等の企業努力により増益基調であったが、大震災により国際・国内線ともに大幅に減少した。

当協会の公益事業は、テナント賃貸事業と貸し会議室事業という2つの収益事業の収益により成り立っているが、貸し会議室事業も景気低迷の継続による需要減少と競争激化によって収入の減少が続く中、震災による会議室予約キャンセルが続出する等、大きな影響を受ける結果となった。

このような中、当協会の事業としては、文化事業では、設立して7年目を迎えた航空遺産継承基金が第3回目の重要航空遺産認定として1910年に日本で初めて飛行をした飛行機のプロペラを認定し、今回もニュースとしてマスコミで報道されるなど注目を集めた。

本年度は日本初の動力飛行から100周年を迎えるにあたり、記念事業の一環として平成20年4月より編纂委員会を設け計画を進めてきた記念誌「日本の航空100年」を刊行し、「空の日」に刊行記念祝賀会を併せ開催した。講演会についても100年をテーマとした内容を5回シリーズで開催し、延586名が参加した。機関誌「航空と文化」は冊子版に加え、WEB版の内容も充実させ安定的に読者を得ている。航空宇宙年鑑、航空統計要覧も例年通り継続して出版した。

航空スポーツ事業では、航空スポーツの記録の面で世界の頂点を極めた人材を輩出した。航空スポーツ各種日本選手権の公認、青少年教育プロジェクト、その他の事業について計画通り実施することができた。また、22回目を迎えたスカイ・レジャー・ジャパン'10 in 福井を福井県坂井市の福井空港（地方管理空港）で行い、延べ33,000人の観客を集めた。

当協会では、子供達に航空スポーツを安全に楽しむ機会を提供することにより、空に対する憧れや科学する心、自然に親しむ心を醸成することを目的に理論と体験を組み合わせた「航空スポーツ教室」と「こども模型飛行機教室」を開催している。全国3箇所で開催した「航空スポーツ教室」には600名（小学4～6年生330名、先生・父兄70名、見学者200名）が参加した。また、全国29箇所で開催した「こども模型飛行機教室」には約2,000名（子供1,280名、保護者・学校関係者等約700名）が参加した。

事務局を受託している「空の日」・「空の旬間」活動では、航空100年を記念して空港スタンプラリーを実施し、中学生海外研修をはじめ諸啓発のイベント事業を行った。また、全国地域航空システム推進協議会の活動では、地域航空のネットワーク促進に向けた政策提言や調査研究を行い、予定通りの成果を挙げた。

国際線発着調整事務局では、国土交通省航空局から委嘱された成田国際空港、東京国際空港（羽田）と関西国際空港の国際線・国内線発着調整業務を行った。

詳しくは後頁の通りであり、ご参照願いたい。

第 1 庶務事項

・ 会 議

1 . 評 議 員 会

第 1 4 回評議員会を平成 2 2 年 5 月 1 8 日に開催し、平成 2 1 年度事業報告並びに決算案に同意し、平成 2 2 年度事業計画並びに収支予算案について同意した。

続いて、同日開催の理事会の終了をもって退任する理事 2 名の補充選任を行った。

2 . 理 事 会

第 1 1 3 回理事会を平成 2 2 年 5 月 1 8 日に開催し、平成 2 1 年度事業報告並びに決算案を承認可決した。引き続き平成 2 2 年度事業計画を承認可決し、諸般の事情により 2 1 年度末までに確定できず、前年度予算に準じて執行してきた平成 2 2 年度収支予算案を承認可決した。

続いて、評議員全員が 5 月 3 1 日をもって任期満了になるため改選を行い、4 名が退任し、新たに就任となる 2 名を含む 3 1 名の評議員を選任した。

(6 頁の . 役員人事の項に記載)

次に、役員の退任に伴う常務理事の選出を同意する件について提案し、全員異義なく同意した。

続いて、退任常勤理事に対する慰労金贈呈承認の件について、当協会の規程に則り相当額の範囲内で退任慰労金を贈呈し、その金額、贈呈の時期及び方法については、常任理事会に一任したいとの説明があり、承認可決した。

3 . 役 員 懇 談 会

平成 2 2 年 5 月 1 8 日、理事会並びに評議員会終了後、顧問・理事・監事及び評議員等の出席を得て懇談会を開催した。

4 . 常 任 理 事 会

平成 2 2 年度常任理事会を 1 0 回開催し、重要な案件について審議し、協会事業の確実な執行と監督を実施した。

第 1 回 平成22年 4月23日 平成 2 1 年度事業報告案並びに決算案、第 1 1 3 回理事会並びに第 1 4 回評議員会開催日程及び提出議案について承認。平成 2 2 年度表彰各賞候補者概要について報告。

第2回	平成22年 5月18日	期中の常務理事の退任により「理事の委嘱業務について」会長より委嘱。
第3回	平成22年 6月29日	表彰委員会受賞者選考結果報告、航空クラブ運営委員会・総会開催報告、全国地域航空システム推進協議会総会開催報告等。
第4回	平成22年 7月27日	平成22年度「空の日」事業の概要説明、航空育英会運営委員会開催報告等。
第5回	平成22年 9月14日	「空の日・宇宙の日記念特別講演会」開催について説明、記念出版事業「日本の航空100年」刊行報告及び「日本の航空100年」刊行記念祝賀会を空の日祝賀会と合同開催とする旨の説明、平成22年度「空の日」関連行事について説明等。
第6回	平成22年10月29日	平成22年4～9月期決算報告、公益法人制度改革に伴う移行について説明、スカイ・レジャー・ジャパン'10 in 福井実施報告等。
第7回	平成22年11月30日	「日本の航空100年記念連続講演会」開催報告及び開催予定についての説明等。
第8回	平成23年 1月26日	公益法人制度改革に伴う当協会の移行類型について説明、重要航空遺産認定報告、平成23年度スカイ・レジャー・ジャパン開催について検討状況報告、航空クラブ新春卓話会開催報告等。
第9回	平成23年 2月22日	航空スポーツ教室開催報告、全国地域航空システム推進協議会研修会開催報告等。
第10回	平成23年 3月29日	平成23年度事業計画並びに予算案を承認、「空の日」実行委員会幹事会開催報告等。

. 役員人事

1 . 理 事

平成22年 5月23日 退任(2名) 小林 忍、平野 晃

平成22年 5月23日 新任(2名) 小池 康隆、横戸 秀一

2 . 評 議 員

平成22年 1月 1日 退任(1名) 山本雄二郎(死去)

平成22年 5月31日 退任(3名) 中村 忠男、繩野 克彦、横山 益久

平成22年 6月 1日 新任(2名) 須川 鐵朗、田村 千裕

再任(29名) 青木 勝、今清水浩介、内田 孝也

落合 一夫、鍛治 壯一、鐘尾みや子

川野邊 涉、久保 康雄、五代 富文

坂尻 敏光、莊司 暁夫、鈴木 一義

鈴木 真二、鈴木 明治、相馬 元実

棚橋 泰、戸矢 博道、西川 涉

萩尾 裕康、藤田 恒郎、藤原 洋

帆足 孝治、松田 政雄、的川 泰宣

屋井 鉄雄、安田 邦男、吉松 秀人

吉本 明康、和田 武彦

第2 事業実績

. 文化事業

1 . 講演会の開催

「航空と宇宙」定例講演会の実施

昭和58年の開講以来、幅広い分野から講師を迎えて航空と宇宙に関する定例講演会を開催している。平成22年度の定例講演会は、航空会館において下表の通り開催した。

本年度は日本初の動力飛行から100周年を迎えるにあたり、記念事業の一環として「日本の航空100年」記念講演会として開催した。

回 / 開催日	演 題 ・ 講 師	参加人数
第250回 5月12日	「航空行政 雑感」 成田国際空港株式会社 取締役兼執行役員特別顧問 黒野 匡彦	141名
第251回 8月26日	「『はやぶさ』の帰還と、試料カプセルの産声、 そして未来にむけて」 宇宙航空研究開発機構 宇宙科学研究所 教授 川口 淳一郎	125名
第252回 9月14日	『空の日・宇宙の日』記念特別講演会 1. 航空関係 「わが国の民間航空機用エンジン事業のこれまでと将来展望」 株式会社IHI 相談役 伊藤 源嗣 2. 宇宙関係 「『かくや』で得られた科学・工学成果」 宇宙航空研究開発機構 宇宙科学研究所 宇宙情報・エネルギー工学研究系 教授 佐々木 進	134名
第253回 11月4日	「航空の安全～われわれは何を学んだか～」 ノンフィクション作家 柳田 邦男	140名
第254回 12月4日	「近代遺産保存への道筋」 独立行政法人国立文化財機構 九州国立博物館 館長 三輪 嘉六	46名

(注) 第252回の『空の日・宇宙の日』記念特別講演会は、例年通り(社)日本航空宇宙学会並びに(社)日本航空技術協会との共催である。

2. 展示会の実施

航空会館6階展示コーナーにおける展示を下表の通り行った。

展 示 期 間	展 示 内 容
平成22年4月6日 ～23年2月4日	『日本の航空100年展』 模型44機 小鷹 和美
平成23年2月7日～	『玉手榮治のヒコーキ工房』 模型38機 玉手 榮治

3. 航空図書館

航空遺産継承基金の活動等がマスコミで報道されるに伴い、書籍・雑誌類の寄贈も増加し、所蔵刊行物の欠号が補充できるなど所蔵の充実に寄与した。

(1) 利用状況 (H22.4～H23.3の実績、但し3.14から東日本大地震のため閉館)

項 目		通 年	月 平 均	1日平均
開館日数	(日)	222	19	
入館者数	(人)	4,719	393	21
貸出登録証発行数	(件)	56	5	
内 訳 (件)	(一般)	42	4	
	(大学・短大等の学生)	11	1	
	(小・中・高生)	3		
貸出利用者数	(人)	760	63	3
貸出冊数	(冊)	1,924	160	9
複写利用者数	(人)	1,031	86	5
資料照会・利用案内件数	(件)	2,951	246	13
ビデオ利用本数	(本)	176	15	

(2) 資料受入状況

	購 入			寄 贈			総計
	国内	国外	計	国内	国外	計	
図 書 (冊)	9	9	18	201	97	298	316
雑 誌 (種類)	7	37	44	67	7	74	118
資 料 (件数)	0	0	0	42	0	42	42
ビデオ・DVDソフト (本)	0	0	0	4	1	5	5

4. 機関誌・図書の刊行

機関誌冊子版「航空と文化」は年2回発行し、特集記事を中心に編集している。当協会ウェブサイト内に開設のWEB版「航空と文化」は冊子版とは別内容で投稿原稿を主体に毎月15日更新を原則としている。インターネット時代を反映し、多くの読者からアクセスされている。

「航空宇宙年鑑」及び「航空統計要覧」は、例年通り発行した。

(1) 冊子版「航空と文化」

101、102号を発行した。発行部数は各号1,700部であった。

「航空と文化」 101 夏季号 平成22年7月15日発行

「航空と文化」 102 新春号 平成23年1月31日発行

(2) WEB版「航空と文化」

4～11月の各15日に更新した。

(3) 航空宇宙年鑑

「航空宇宙年鑑2010年版」 平成23年1月14日発行。

本書は、前年同様、書籍版(B5判 388頁)及びCD-ROMの形で出版した。

(4) 航空統計要覧

「航空統計要覧2010年版」 平成22年12月15日発行。

本書は、前年同様(A5判 326頁)の形で出版した。

(1)及び(2)の概要は、別表1(65頁～66頁)の通り。

5. 記念出版事業

平成22年(2010年)9月20日「空の日」に記念誌「日本の航空100年 航空・宇宙の歩み」を刊行した。

また、刊行まで2年半に亘りご協力いただいた記念誌編纂委員の皆様、及び160余名のご執筆者とともに、刊行記念祝賀会を「空の日」航空関係者表彰祝賀会と併せ開催した。

6. その他

平成22年度は以下のとおり後援を行った。

名 称	開 催 日	場 所	参加人数
セーフティフォーラム2010	2010.08.25	東京大学本郷キャンパス安田講堂	412名
日本の航空100年記念 航空切手展	2010.11.12 ～11.14	池袋・サンシャインシティ文化会館	4,500名

名 称	開 催 日	場 所	参加人数
日本の航空の明日を考える～ 日本の航空 100 年記念フォーラム	2010.12.07	東京大学本郷キャンパス安田講堂	370 名

6 . その他

平成 2 2 年度は以下のとおり後援を行った。

. 航空遺産継承基金事務局業務

第 3 回の「重要航空遺産」認定を行った。また、日本航空協会も後援した国立科学博物館の特別展『日本の航空・宇宙 1 0 0 年記念「空と宇宙展- 飛べ！ 1 0 0 年の夢」』について、基金事務局では展示資料に関して助言・提供を行うと共に記念誌の編集に協力した。これらの活動がマスコミでも取り上げられ、航空遺産継承事業に関する認知度をより一層高めることができた。

1 . 賛助員

期末における賛助員の状況は以下の通り。

特別賛助員（累計）9 名、1 団体
 法人賛助員 2 5 口（9 法人）
 個人賛助員 5 4 口（4 5 名）

2 . 特別顧問及び専門委員

（1）特別顧問

以下の 5 名の方に特別顧問を委嘱した。

近藤 信司 独立行政法人国立科学博物館館長
 野村 吉三郎 全日本空輸株式会社最高顧問
 松尾 道彦 財団法人日本海事センター会長、財団法人航空機安全運航支援センター会長、当協会理事
 南 貞男 マイナミホールディングス株式会社名誉会長
 三輪 嘉六 独立行政法人国立文化財機構九州国立博物館館長

（2）専門委員

以下の 5 名の方に専門委員を委嘱した。

鈴木 一義 独立行政法人国立科学博物館科学技術史グループグループ長、
 当協会評議員

中山 俊介	独立行政法人国立文化財機構東京文化財研究所保存修復科学 センター近代文化遺産研究室室長
藤田 俊夫	航空史家
藤原 洋	航空史家、当協会評議員
横山 晋太郎	前かかみがはら航空宇宙博物館参事、 独立行政法人国立文化財機構東京文化財研究所客員研究員

3. 活動報告

(1) 航空資料保存に関する研究

前年に引き続き、独立行政法人国立文化財機構東京文化財研究所と共同で資料保存に関する研究を行い、近年寄贈を受けた青焼き資料の中で特に保存処置が必要なものを選び修復した。

(2) 「重要航空遺産」の認定

国立科学博物館が所蔵・展示する「日本初の動力飛行をした飛行機のプロペラ」を「重要航空遺産」として12月19日に認定した。同日に国立科学博物館で開催された特別講演会「航空100周年記念シンポジウム ～日本の空を拓いた日野熊蔵・徳川好敏両大尉から100年」の開催に先立ち、日本航空協会近藤秋男会長から国立科学博物館近藤信司館長に認定証及び記念プレートを贈呈した。贈呈式後に日野・徳川両大尉のご息も一緒に記念写真の撮影が行われ、認定については産経新聞に掲載され、当日の様子はNHKで放映された。

(3) 資料の公開

- 1) 日本の動力飛行100周年を記念する特別展『日本の航空・宇宙100周年記念「空と宇宙展- 飛べ! 100年の夢」』が国立科学博物館で10月26日から2月6日までの間に開催された。基金事務局では展示資料に関して助言・提供を行うと共に記念誌の編集に協力した。
- 2) 保存処置及びデジタル化の終了した写真資料85枚、及び117枚を6月11日と1月13日にホームページで公開した。

(4) 寄贈資料

以下の資料を初めとする多くの寄贈を受けた。

- 1) 南極観測船「宗谷」で使用されたヘリコプターなどの写真12枚
- 2) 日本大学が開発を進めた軽飛行機 N-58シグネットの写真の画像データ
- 3) 木更津航空基地の航空写真の複写
- 4) 戦中の日本機の試験結果などまとめた設計資料
- 5) 野瀬弘太郎様が戦中に日本飛行機で作図した十二試初歩水上練習機の青図を初めとする資料
- 6) 一式戦闘機に関する資料「飛行機工術教程(案)」
- 7) 戦前戦中の旅客機などが写った写真及び当時の時刻表など
- 8) T-4ジェット練習機など戦後の航空機開発に関する写真及び資料
- 9) 昭和16年に大日本飛行協会中央滑空訓練所教官となり戦後も滑空機パイロットの養成訓練などに貢献された日向美智子様撮影、収集した滑空機の写真など

- 10) 航空記者として著名であった毎日新聞の郡捷様が遺した戦前戦後の日本の民間航空に関する資料。
- 11) 1930年中頃より始めた飛行機による流氷観測等で有名であった根岸錦蔵飛行士が使用していた六分儀（航法機器）と時計。
- 12) ポッシュ製スパークプラグの販売促進用のガラス製看板。同社のスパークプラグは航空機用として多く使われていたこともあり、看板には飛行機のシルエットが彫られている。
- 13) 昭和2年日本飛行学校を卒業し大阪飛行機研究所、日本航空輸送(株)、大日本航空(株)などで機関士をされたご井口義廣様の残された写真や飛行学校の卒業証書の写しなど。
- 14) 文部省式一型滑空機の図面など。
- 15) 国際航空宇宙ショーや航空機のロールアウトを記念して主催者や航空機メーカーが製作したネクタイピン等128点。
- 16) 大正11年に日本初の定期航空輸送を始めた日本航空輸送研究所が発行した時刻表など。
- 17) 東京帝国大学航空研究所飛行機部員の集合写真を複写したネガ。
- 18) 第1次世界大戦で敗れたドイツ、オーストリアから押収した航空機の調査結果の一部をまとめた「押収独軍機材説明書」。

(5) その他

- 1) 旧陸軍三式戦闘機「飛燕」を知覧特攻平和会館に引き続き貸出した。
- 2) 戦前航空局航空官であったご尊父甲斐茂吉様が所蔵していたリンドバーグ大佐及び徳川好敏少将が写った徳川少将のサイン入り写真を調べている甲斐正三様の調査に協力した。
- 3) 先に寄贈いただいた戦前戦後の日本の民間航空に関する資料に害虫・カビの発生が見られたため、殺虫・殺カビ処理を実施した。整理作業等は資料の貴重性などから東京文化財研究所の協力を得て、同研究所にて開始した。
- 4) 日本航空宇宙学会が日本科学未来館で開催した「日本の科学技術の歴史展」の戦前・戦中の航空機構造・材料に関する展示で、基金事務局が国立科学博物館での展示会「YS-11 国産旅客機44年の航跡」用に作製した「わが国の旅客機の系譜図」のデータを貸し出した。
- 5) 朝鮮人初の操縦士として韓国で著名な安昌男の生涯を紹介するテレビ番組「KBS 歴史スペシャル “見よ安昌男が空を飛ぶ 大空に広げた朝鮮独立の夢”」を製作している韓国国営放送KBSの取材に協力し、同操縦士に関する当時の文献等を紹介した。安操縦士は1921年から東京の小栗飛行学校で操縦を学び、1922年に出身地・京城を訪問飛行したが1930年に飛行機事故で亡くなっている。

・調査研究事業

1 . 航空宇宙関係記念碑調査

- (1) 昨年度に引き続きインターネット、新聞等各種情報により、国内の記念碑、慰霊碑等約 20 基の存在を新たに確認した。その中で 1945 (昭和 20)年 4 月に岡山県山中へ墜落した大日本航空の輸送機「燕岳」号の事故慰霊碑は、遭難した乗客の遺族を捜し出して現存を確認したものである。
- (2) 日本の航空 100 周年にちなみ機関誌「航空と文化」 101 及び 102 で「初」・「発祥」・「発始」・「創始」などを冠した航空に関連する全国の碑類について解説記事を発表した。
- (3) 以下の現地調査を行った。

鳥人浮田幸吉住居跡標識 / 静岡県磐田市

櫛部・水代君殉職之所(電報通信社連絡機遭難慰霊碑) / 奈良県室生山中

平和の礎(本土防空戦陸軍飛行士慰霊碑) / 三重県津市

木村・徳田両中尉記念塔(陸軍飛行士事故慰霊碑) / 埼玉県所沢市

フォール大佐胸像(本邦航空貢献者) / 埼玉県所沢市

少年飛行兵の像 / 埼玉県所沢市

航空発祥の地 / 埼玉県所沢市

航空殉難供養塔(陸軍飛行士事故慰霊碑) / 埼玉県所沢市

燕岳号殉職者之墓(大日本航空輸送機事故慰霊碑) / 岡山県鏡野町

酒井片桐飛行殉難碑(朝日新聞連絡機事故慰霊碑) / 鳥取県琴浦町

護国延命地蔵尊(空自戦闘機×3 事故慰霊碑) / 島根県出雲市

2 . 航空宇宙輸送研究会

当協会寄附行為に謳う航空宇宙知識の普及活動として、第 4 回宇宙旅行シンポジウムを日本ロケット協会と共催で平成 22 年 12 月 11 日(土)に開催した。当日は 213 名の参加者を得て、わが国の宇宙開発のあり方や民間宇宙旅行に関する世界の動向などについて熱い議論を繰り広げて成功裏に終了した。

第 4 回宇宙旅行シンポジウムに関する打ち合わせを以下のとおり開催した。

なお、シンポジウムの内容については、当協会のホームページの「航空宇宙輸送研究会」及び、機関誌かつ広報誌である「航空と文化」に収録した。

- (1) 準備会の開催
- | | | | |
|-----|------------------|-----|-------------------|
| 1 回 | 平成 22 年 3 月 29 日 | 5 回 | 平成 22 年 10 月 15 日 |
| 2 回 | 平成 22 年 5 月 13 日 | 6 回 | 平成 22 年 11 月 15 日 |
| 3 回 | 平成 22 年 6 月 21 日 | 7 回 | 平成 22 年 12 月 8 日 |
| 4 回 | 平成 22 年 7 月 14 日 | | |

(2) 第4回宇宙旅行シンポジウム

開催日時：平成22年12月11日(土) 13:00~17:00

開催場所：航空会館 7階 大ホール

シンポジウムプログラム

1. 基調講演

山崎 直子 氏 (宇宙航空研究開発機構 宇宙飛行士)

2. 一般講演

「北海道スペースポート構想の戦略性」

伊藤 献一 氏 (HASTIC(北海道宇宙科学技術創成センター)理事長)

「世界の商業有人宇宙開発機構と商業スペースポート」

大貫 美鈴 氏 (米スペースフロンティアファンデーション)

「民間航空の視点から見た宇宙旅行」

橋本 安男 氏 (日本航空協会/桜美林大学客員教授)

「宇宙旅行に対する私見と日本の宇宙政策の現状」

山川 宏 氏 (内閣官房宇宙開発戦略本部事務局長・京都大学教授)

3. パネルディスカッション

パネラー：山崎 直子 氏

伊藤 献一 氏

大貫 美鈴 氏

橋本 安男 氏

山川 宏 氏

秋山 演亮 氏 (和歌山大学宇宙教育研究所 所長)

コーディネーター：

稲谷 芳文 氏 (日本ロケット協会・宇宙科学研究所教授)

3. 航空関連受託調査の実施

(1) 国土交通省国土技術政策総合研究所より研究調査「小型機の活用及びLCCによる航空輸送活性化に関する調査業務」を、運輸政策研究所とのジョイント・ベンチャー形式で、企画競争入札で受託した。有価証券報告書等文献に基づく調査を行い、さらに国内、米国を現地調査し、報告書を作成、提出した。

(2) 上記研究調査と関連し、全国地域航空システム推進協議会に協力し同様の研究調査を行い、報告書を作成、提出した。

・航空スポーツ普及・振興事業

1 . 概況

平成22年度の航空スポーツ人口は、前年度に比べて全体的に減少傾向が続いている。特に前年から続く不況下にあって普及・振興の歩みは減速の方向にある。同時に、各種目とも愛好者の高齢化に歯止めがかからず、若い世代の育成・子供達への継続的かつ地道な情報発信・働きかけが、航空スポーツの普及を図る上で最重要課題となっている。

国際航空連盟（FAI）の活動として、年次総会（アイルランド）に当協会の湯淺副会長、担当課長が出席、また各国で開催されたFAI種目別7スポーツ委員会に、航空スポーツ統括6団体からそれぞれ代表が出席した。

7月23日～8月1日まで ハンガリー ギュラで開催された 模型航空コントロールライン世界選手権・F2Bにて日本チームが活躍し団体第2位を獲得した。

アジア・オセアニア大陸世界選手権に模型航空F3AラジオコントロールヘリコプターとF3Aラジオコントロール曲技に参加し、それぞれの種目で個人1位～4位を独占し団体優勝も達成した。

22回目となったスカイ・レジャー・ジャパン'10 in 福井は、9月25日、26日に福井県坂井市の福井空港（地方管理空港）で開催され、小型航空機やグライダーによるエアロパティックを始め、モーターグライダーによる編隊飛行が行われた。またジャイロプレーンやマイクロライトなど各種航空スポーツ分野の飛行展示や地上展示、熱気球の係留体験搭乗やハンググライダーふわり体験などのイベントを行い、33,000人の観客を集めた。

「JASPA基金」は平成18年度で旧会員へのサービスを終了し、当協会で行う航空スポーツ教室等、スカイスportsの普及振興のための原資として活用した。

日本国内における航空スポーツ関係の事故（平成22年1月～12月の間）については、総件数53件、死亡者6名を数え、前年に比べて事故件数、死亡者数はともに減少した。

航空スポーツに従事するものは「空の安全確保」のみならず、一般の見物人等の存在に対しても十分な注意を払うべく行動し、第三者を巻き込む事故は絶対に避けなければならない。各統括団体・クラブ等の指導者には組織的に取り組むよう指導、愛好者一人一人には機材整備・技量向上・地域気象判断は勿論のこと、航空スポーツのモットーである「安全に楽しく・他人に迷惑をかけない自己責任」の認識を徹底するように各団体を通じて働きかけた。更なる安全に向けて、当協会と各航空スポーツ団体間で、安全対策・事故防止、普及・教育活動、無線取り扱い指導への取り組み等につき、日頃から意見交換・交流の場を設け推進を図った。

航空スポーツ団体の活動状況は、別表2（67頁）の通り。

2 . 国際航空連盟（FAI）に関する活動

（1）第104回FAI総会が開催され、日本代表として、当協会より2名が出席した。

会議名	期間	場所	出席者
第104回総会	2010年10月07日 ～09日	ダブリン (アイルランド)	湯淺 康司 徳永 いつ子

(2) 種目別国際エア・スポーツ委員会、技術委員会に関する活動
各委員会の開催期間、開催地及び出席者は、下表の通り。

会議名	期間	開催地	出席者
航空模型航空委員会	2010年04月15日 ～17日	ローザンヌ (スイス)	日本模型航空連盟 廣瀬 春信
国際医学生理学委員会	2010年06月18日 ～20日	ローザンヌ (スイス)	(社)日本滑空協会 嶋田 和人
国際曲技飛行委員会	2010年11月05日 ～07日	オーバーハウゼン (ドイツ)	(社)日本航空機操縦士協会 植田 展生
国際マイクロライト委員会	2010年11月12日 ～13日	ローザンヌ (スイス)	日本パラモーター協会 五十嵐亮弥
国際ハング・パラグライ ディング委員会	2011年02月24日 ～27日	ローザンヌ (スイス)	(社)日本ハング・パラグ ライディング連盟 岡 芳樹
国際滑空委員会	2011年03月04日 ～05日	ローザンヌ (スイス)	(社)日本滑空協会 甲賀 大樹
国際気球委員会*	2011年03月09日 ～12日	東京 (日本)	日本気球連盟 市吉 三郎

*今年度の国際気球委員会は、航空協会の全面的な協力のもと航空会館にてアジア地区で初めて開催された。24カ国から67名が参加し、航空スポーツとしての気球に関わるあらゆる議題について議論された。

3. 競技会

平成22年度日本選手権は、熱気球、模型航空機、ハング・パラグライダー(Class 、 Class 、アキュラシー)、マイクロライト(パラモーター)の4種目、計17サブクラスが公認・開催され、日本選手権者の栄誉を得るために多くの選手が集い飛行技術を競った。

また、海外で開催されたFAIカテゴリー1国際競技会として、「世界選手権」では、熱気球、エアロパティック(アドバンスト)、滑空機、模型航空機(10サブクラス)、ハンググライダー(Class 、)に日本選手が参加した。

各種競技会の実績は、**別表3**(68頁～71頁)の通り。

4. 記録の公認等

平成22年度の日本記録は、熱気球1名で1件、滑空機3名で3件、模型航空機1名で1件を公認した。うち模型航空機の1記録は世界記録に認定された。

別表4(72頁～74頁)を参照。

5. スカイ・レジャー・ジャパン事務局業務

(1) スカイ・レジャー・ジャパン'10 in 福井 の開催

第22回となった今年度のスカイ・レジャー・ジャパン(SLJ)は、9月25日～26日坂井市の福井空港で開催し、2日間で33,000人の来場者で賑わった。本大会は、例年行っている「福井空港スカイフェスタ」と同時開催し、滑走路、エプロン、格納庫、駐車場を使用して各種航空スポーツ機によるイベントを盛り上げた。

飛行展示は小型機航空機やグライダーによるエアロパティックをはじめ、飛行機やモーターグライダーによる編隊飛行、パラグライダー、ハンググライダーのウィンチ曳航による飛行、模型(R/C(ラジオコントロール))飛行機・ヘリコプター、パラモーター、ジャイロプレーン、マイクロライト(体重移動操縦型、舵面操縦型)、県防災・海上自衛隊ヘリコプターなどが披露された。

体験イベントとしては、早朝に滑走路上で3機の熱気球による係留体験搭乗、また緑地を利用して模型飛行機(ゴム動力、紙飛行機)、ハンググライダー、パラグライダーのふわり体験セサ体験搭乗飛行、子供航空教室などが行われ、770人余りの方々に貴重な機会をもっていた。

地上展示としては、航空スポーツ8団体やディープブルース、ヒロポー、ジャプコン、自衛隊ならびにANA、JALなどの展示、また開催地から「空の日」絵画展や航空写真展、バルーンアート制作教室や名産物などの即売が行われ、大人から子供まで楽しめる大会となった。

今回は空港の駐車場も地上展示に使用したため、周辺に臨時駐車場を設けるとともに、駅などと無料のシャトルバスを運行した。

〔大会概要〕

開催日 2010(平成22)年9月24日 公式練習

25日(土)本大会(開会式、ウェルカムパーティー)

26日(日)本大会

会場 福井空港

(2) スカイ・レジャー・ジャパン'11について

2011年度大会は協賛金収入の見込みが立たないなどの理由により中断することとした。

6. 航空スポーツ教室、こども模型飛行機教室

「スカイ・キッズ・プログラム」の開催

子供達に航空スポーツを安全に楽しむ機会を提供することにより、空に対する憧れや科学する心、自然に親しむ心を醸成することを目的に理論と体験を組み合わせた「航空スポーツ教室」と「こども模型飛行機教室」を「スカイ・キッズ・プログラム」として昨年に引き続き実施した。

(1) 航空スポーツ教室

本年度は、以下の3箇所で開催し、熱気球の係留体験搭乗、パラグライダー体験を実施した。指導については、日本気球連盟及び(社)日本ハング・パラグライディング連盟の協力を得た。

福島県福島市立佐倉小学校(平成22年10月30日、参加者:51名)

神奈川県横浜市立南本宿小学校(平成22年12月18日、参加者:70名)

東京都台東区谷中防災広場 初音の森(平成23年2月20日、参加者:82名)

(2) こども模型飛行機教室(こども模型飛行機教室全国推進委員会共催)

29箇所(参加者約1,280名)で開催した。教室では、オリジナルの座学用DVD(飛行の歴史、航空スポーツ紹介)や揚力実験装置等を用いて座学を行ない、オリジナルゴム動力模型飛行機(スカイ・キッズ号)の製作、飛行調整・ミニ競技の内容を実施した。

7. 青少年航空宇宙絵画国際コンテスト

国際航空連盟(F A I)が主催する青少年を対象とした国際絵画コンテスト「2011 F A I ヤング・アーティスト・コンテスト」の国内予選を、昨年に引き続き開催した。

今回は「宇宙飛行～人類初の宇宙飛行から50年～」をテーマに全国より総数627名から応募があり、平成23年2月22日開催の審査会の結果、下表の通り9名が入賞した。入賞9作品はF A Iの国際コンテストに日本代表として出品した。

優秀賞

クラス	氏名	住所	題名
6～9歳 (年少)	長谷川 和哉	兵庫県加古川市	家族で宇宙旅行
	安藤 愛華	秋田県秋田市	楽しさ いっぱい うちゅうたいけん!
	小林 広大	埼玉県入間郡	緑いっぱいの星へ
10～13歳 (年中)	楠 響花	神奈川県横浜市	宇宙にも花を咲かせよう!!
	松任 麻衣子	大阪府大阪市	カニ座は何処かな?
	関野 和樹	東京都東村山市	夢の宇宙飛行
14～17歳 (年長)	榊原 吉恵	岐阜県土岐市	宇宙からの日の出
	杖谷 美彩	鹿児島県指宿市	宇宙へドライブ!
	竹内 翔祐	長崎県佐世保市	To the next 50 years

8. J A S P A 基金

J A S P A 基金を設立して8年目に当たり、平成18年度で旧会員自治体へのサービスを終了した残金で、基金の趣旨による事業を当協会で行った。主な事業は、以下の通りであり、**別表5**（74頁）に基金事業費用報告をまとめた。

- ・スカイ・レジャー・ジャパンの支援
- ・航空スポーツ教室 3ヶ所開催（航空スポーツ教室「スカイ・キッズ・プログラム」参照）
- ・スカイスポーツシンポジウムの協賛
- ・F A I 絵画コンテストの国内選考業務
- ・日本航空協会後援イベントの安全指導（1箇所）

9. 主催・共催・後援事業

主催・共催・後援事業等は、**別表6**（74頁～77頁）の通り。

・表彰・弔慰援護事業

1 . 表彰

(1) 平成 2 2 年度表彰

6月14日開催の表彰委員会で平成22年度の当協会賞各賞の受賞者を決定し、9月21日にFAI賞各賞の伝達式を兼ねた航空関係者表彰式を航空会館において行った。

また、式典後には当協会主催の受賞者をお祝いする「祝賀会」を開催し、協会賞及びFAI賞受賞者各氏の功績を称えた。

1) 日本航空協会賞

種 類	受 賞 者 (敬称略)
航空亀齡賞	小倉 弘雄、齊藤 一郎
航空功績賞	内村 信行、笠松 佐七、前沢 淳一、松木 正勝
航空特別賞	特定非営利活動法人救急ヘリ病院ネットワーク(理事長 國松孝次)
空の夢賞	若田 光一
航空スポーツ賞	檀上 彰宏、石井 満

2) 国際航空連盟(F A I)賞

種 類	受 賞 者 (敬称略)
オノラリー・グループ・ディプロマ	佐賀バルーンフェスタ組織委員会、佐賀市
ポール・ティサンディエ・ディプロマ	阪田 茂男、酒井 堯之、松尾 悦志
フランク・エリング・ディプロマ	松坂 敬太郎
コリブリ・ディプロマ	松尾 悦志
エア・スポーツ・メダル	松本 英一、野村 達夫、鈴木 康一、相馬 元実

受賞内容等の詳細は、別表 7 (78頁～80頁)の通り。

2 . 弔慰援護

航空関係物故者11名について、寄附行為第4条の規定に基づき弔慰を表した。

また航空育英会を継続実施し、平成22年度の給付奨学金総額は1,764千円、受給奨学生の人数は14名で、その内訳は、小学生4名、中学生1名、高校生3名、大学生6名であった。

・航空交流事業

1 . 新年賀詞交歓会

当協会が世話役の代表となって毎年開催する恒例の賀詞交歓会は、平成23年1月4日航空会館において、宿利国土交通審議官、本田航空局長、航空関係者約470名が出席して盛大に行われた。

2 . 航空神社祭事

平成22年9月21日に航空会館9階屋上の航空神社において、航空各社代表、祭神である航空殉職者・功労者の遺族の参列を得て、靖国神社神官の出張奉仕により航空神社平安祈願例大祭を実施した。

平成23年1月4日に新年祭を執り行うとともに、毎月、当協会管理職の出席のもとに参拝を執り行った。

・全国地域航空システム推進協議会 事務局業務

平成22年度には、長年要望してきた羽田空港における小型航空機（60席以下）の発着枠の制限の撤廃について、今まで認められてこなかった昼間時間帯においても乗り入れの制限は撤廃された。一方、小型機（100席以下）による新規路線において1便の枠が配分されているが、羽田空港に乗り入れを希望する地域はあるものの、運航を引き受ける航空会社が見つからず、引き続き希望する地域が航空会社を探す努力を続けている。また離島航空路線における運航環境の整備として「衛星（MSAS）による航行援助受信装置の追加配備のための助成措置」に関し、4年計画のうちの最終年である平成22年度においては7,000万円の予算が決定されるなど要望実現に大きな成果をあげた。羽田の新滑走路の供用開始後6ヶ月間の第一段階の増枠の期間が終了し、次の増枠に向けての検討が開始される時期を迎え、配分された小型機枠を使用しての新規路線の実現と引き続き会員の希望に沿った要望活動を続けてゆく努力が必要となっている。

平成22年度末の会員数は、40都道府県（会員）・25市町村（会員）・8賛助会員（団体）・13賛助会員（地域航空事業者）である。

1 . 研究調査

以下のテーマにて、国土交通省国土技術政策総合研究所と共同研究として外部に委託し、海外現地調査を含む研究調査を行った。またその成果を年次の研究調査報告書に収録した。

テーマ	委託先
小型機の活用及びLCCによる 航空輸送活性化に関する調査	東京工業大学大学院屋井研究室 (財)日本航空協会

2. 「地域航空フォーラム/10」の開催

本年度も（財）空港環境整備協会の助成を受け、（財）日本航空協会の主催、全国地域航空システム推進協議会の共催のもと国土交通省をはじめとして16団体からの後援を受け10月21日、東京都港区新橋において「地域航空フォーラム/10」を開催し、212名の多数の参加を得て、下記の通り実施した。

(敬称略)

テ マ	「地域航空による国内外との交流」 - リージョナル機の活用・地域間交流から国際交流へ -
基調講演 1	「アジアのローコストキャリアとリージョナルジェット」 東京工業大学大学院 准教授 花岡 伸也
基調講演 2	「ドクターヘリ10年 その拡充と安全」 救急ヘリ病院ネットワーク 理事 西川 渉
パネル・ディスカッション (50音順)	テーマ：「リージョナル機の活用・地域間交流から国際交流へ」 コーディネーター 一橋大学大学院 教授 山内 弘隆 パネリスト 株式会社 フジドリームエアラインズ 取締役副社長 内山 拓郎 国土交通省航空局監理部航空事業課 課長 篠原 康弘 東京工業大学大学院 准教授 花岡 伸也 淑徳大学 教授 廻 洋子

3. 研修会等の開催

平成23年1月20日、「研修会」を開催し、以下のテーマと講師による講演を行った。参加者数は93名であった。

テ マ	講 師 (敬称略)
「航空事業の現状と今後の 動向について」	国土交通省航空局監理部航空事業課 課長補佐 金指 和彦
「能登空港の取り組みについて」	石川県能登空港管理事務所 所長 中本 利光
「観光を通じた地域振興」	国土交通省観光庁観光地域振興課 課長補佐 羽矢 憲史

4. 国への要望等

地域航空システム推進のため、6月24日総会終了後、会長の井戸兵庫県知事により、また11月19日に会長代行である竹本県土整備部長により“地域航空ネットワーク確保のための助成補助制度の拡充”“地域航空事業者の経営に資する、公租公課の軽減について”“地域航空運航のためのユニバーサルデザイン、バリアフリーの観点を加味した環境整備について”等々の重点項目を掲げ、国への要望を行った。

なお、これまでの要望の成果として羽田空港に乗り入れる100席以下の小型機で行う新規路線についてパイロット事業として1便が割り当てられたと共に、羽田空港の新滑走路が供用開始された平成22年10月21日から、昼間の時間帯(08:30~20:30)においても60席以下の小型機の使用の制限は撤廃された。

新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)主催の国産小型リージョナルジェット機にかかわる研究 評価委員会「先進操縦システム等研究開発基盤促評価委員会中間評価委員会」に技術委員として参加した。

・「空の日」・「空の旬間」実行委員会事務局業務

1. 事業方針

平成22年度方針を以下の通りとし、事業を行った。

- (1) 目的の明確化：事業の目的を「功労者への顕彰」「若者の育成」「地元との融和」と明確にする。
- (2) 航空の定義の拡大：従来の航空輸送事業を中心とした考え方に加え、航空機製造及び宇宙開発なども含めて考える。
- (3) 事業の費用及び効果の精査：実行委員会として、事業予算の有効な配分、かつ無駄の無い執行を心掛け、各事業をきめ細かにフォローする。

2. 事業内容

昨今の経済情勢に鑑み、事業規模を見直し以下の通年事業7事業、並びに2010年がわが国初の動力飛行に成功してから100年にあたることから特別事業として「航空100年事業」1事業を実施した。

- (1) 中学生派遣事業：海外派遣コース(4泊6日)は、成田空港から6名及びFAI国際絵画コンテスト入賞者2名を加えた8名の中学生が集い、シアトルボーイング工場、サンフランシスコ国際空港、JALのナバ乗員訓練所見学等の研修を実施した。
- (2) 第58回「空の日」・「航空100年」記念式典：9月21日(火)に帝国ホテルにて実施した。

- (3) 広報活動：青少年向けに開設している空の日ホームページの普及と充実、協賛各社・団体保有の機関誌・機内誌等紙面への空の日に関する記事掲載（無償）、航空教室、イベント等での告知により幅広い広報活動に努めた。
- (4) 絵画コンテストの支援：国内入賞者から年齢別の各クラス1名、計3名を「空の日賞」として選出し賞状及び副賞を贈呈した。また国際コンテストに入賞した2名に賞状及び副賞を贈呈した。
- (5) 地方事業の支援：全国各地の空港など約70箇所で開催の実行委員会が実施した「空の日」・「空の旬間」事業の支援を行った。
- (6) スカイ・レジャー・ジャパンの支援：9月25日(土)～26日(日)に福井県坂井市の福井空港で開催されたスカイ・レジャー・ジャパン'10 in福井の支援を行った。
- (7) 啓発事業の支援：青少年を対象とする「航空教室等」(4団体3グループ)の事業費の一部支援を行った。
- (8) 航空100年事業：
 - 1) フォトコンテストを実施し、全国から461点の応募があり、最優秀賞1点、優秀賞2点、佳作7点を決定し、また入賞には及ばなかった作品から、準佳作11点、くにまる賞2点を新たに設け、計23点を空の日ホームページで発表した。
 - 2) 航空100年記念グッズをはじめ、航空会社の無料航空券や全国の空港がある地域の特産品など航空100年にちなんで100種類の賞品を用意し空港スタンプラリーを2回実施した。
 - 3) 羽田D滑走路供用前イベントとしてD滑走路ウォーキングを実施し、事前応募により、当選者約700名が参加した。
その他、記念グッズの製作、記念ツアー造成等、航空100年を積極的にアピールし、より多くの方々に航空に関心を高めてもらえるよう関係者と調整し、様々なイベントを企画し、空の日ホームページを活用して告知した。

・国際線発着調整事務局業務

平成20年1月から、わが国の混雑空港である成田国際空港及び関西国際空港の国際線発着調整業務が当協会に委嘱されたが、平成22年2月新たに東京国際空港（羽田）における国際線・国内線発着調整業務が追加委嘱された。平成22年度においては、成田、関西、羽田空港の3空港における国際線・国内線に関する冬ダイヤ、夏ダイヤの調整作業、IATA（国際航空運送協会）会議への貢献に加え、事務局の中立性、公平性、透明性等を更に推進するため下記に示すような業務を実施した。

1. 2010年冬ダイヤ、2011年夏ダイヤの調整

成田国際空港、関西国際空港及び東京国際空港（羽田）の国際線・国内線スケジュールに関し、IATAのWSG (Worldwide Scheduling Guidelines) 及び当該空港のローカル・ガイドラインに基づき、下記の調整を日本乗り入れ航空会社（約70社）と実施した。

(1) 2010年冬ダイヤ（10.31,2010 - 3.26,2011）の調整

1) IATA SC (Schedule Conference) 事前調整

2010年冬ダイヤの調整に当たり、前年同期の運航実績を各航空会社に送付（4月末）、運航実績の相互確認、各航空会社からの希望スケジュールの提出（5月中旬）、希望スケジュールを規制値内に収めるよう調整し初期回答（6月初め）を内外の航空会社に対して行った。

2) IATA SC (Schedule Conference) 126回会議への参加

SC 126回会議がドイツ国ベルリンにて6月17日～20日の間開催され、日本乗り入れ航空会社と個別面談方式により2010年冬ダイヤにおけるスケジュール調整を行った。

3) 航空局説明会の開催

SC会議において、成田国際空港B滑走路の2,500m化、東京国際空港（羽田）における新D滑走路供用を受けた新国際航空政策（成長戦略）について航空局説明会を開催した。成田国際空港の現状発着枠22万回から30万回に向けたマイルストーン、東京国際空港（羽田）の昼間時間帯6万回への増枠マイルストーンを示し、成田空港と羽田空港がお互いに補完しながら、首都圏における需要をまかなうという成長戦略についての説明を行った。

(2) 2011年夏ダイヤ（3.27 - 10.29,2011）の調整

1) IATA SC (Schedule Conference) 事前調整

2011年夏ダイヤの調整に当たり、前年同期の運航実績を各航空会社に送付（9月中旬）、運航実績の相互確認、各航空会社からの希望スケジュールの提出（10月初旬）、希望スケジュールを規制値内に収めるよう調整し初期回答（11月初旬）を内外の航空会社に対して行った。

2) IATA SC (Schedule Conference) 127回会議への参加

SC 127回会議がオーストラリア国メルボルンにて11月11日～14日の間開催され、日本乗り入れ航空会社と個別面談方式により2011年夏ダイヤにおけるスケジュール調整を行った。

3) 航空局説明会の開催

SC会議において、東京国際空港（羽田）のD滑走路が10月21日から供用され国際定期便の運航が31日から開始されたこと、成田国際空港会社が30万回への増枠について地元と合意に至ったという最新ニュースを含む新国際航空政策について航空局説明会を開催した。成田空港、羽田空港の施設拡張による今後の首都圏空港の容量増加に関して、マイルストーンを示しながら説明を行なった。

2. WWACG、IATAのJSAG会議への貢献

発着調整組織の国際的会議体であるWWACG (Worldwide Airport Coordinators Group) 会議のコアメンバー（7ヶ国）として、またIATAのJSAG (Joint Scheduling Advisory Group：航空会社のスケジューラー（7航空会社）と空港の発着調整事務局（7ヶ国）との合同会議）会議に参加し、日本としての貢献を行なった。

これらの会議では、スケジュール調整に関する問題点の抽出、問題の解決に向けた議論、得られた解決案を反映するためIATAのWSGの規則改定の実施等について幅広く議論がなされるが、これら会議に日本及びアジア太平洋地域の代表として参加し各種提言を行った。

(1) WWACG / C4 コアメンバー会議、JSAG / 26 会議への参加

IATA SC 126 回会議に先立ち、WWACG / C4 コアメンバー会議が6月15日、IATAのJSAG / 26 会議が6月16日、ドイツ国ベルリンで開催され、問題点解決に向けた議論を行った。また、次回のWWACG会議、JSAG会議を東京で開催することを日本より提案し、両会議とも東京開催を了承した。

(2) WWACG / C5 コアメンバー会議、JSAG / 27 会議の主催

WWACG / C5 コアメンバー会議及びJSAG / 27 会議が、当協会の主催で航空会館にて開催された。WWACG会議は8月31日～9月1日の間、JSAG会議は9月2日開催され、問題点解決に向けた議論を行なった。なお、9月1日の午後は、会議参加者全員で東京国際空港（羽田）の新国際線ターミナルビル、並びに航空局東京空港事務所の新管制塔の視察を行なった。

(3) WWACG / C6 コアメンバー会議、JSAG / 28 会議への参加

IATA SC 127 回会議に先立ち、WWACG / C6 コアメンバー会議が11月10日午前、IATAのJSAG / 28 会議が10日午後、オーストラリア国メルボルンで開催され、問題点解決に向けた議論を行った。

(4) JSAG 緊急特別会議への参加

JSAGでは、IATAのWSG (Worldwide Scheduling Guideline) の抜本的改訂を行っており、急遽JSAG会議が12月2日～3日とカナダ国モントリオールのIATA本部において開催され、WSGの新ドラフトについて審議を行った。

(5) WWACG / C7 コアメンバー会議、JSAG / 29 会議の開催

WWACG / C7 コアメンバー会議が2月8日、IATAのJSAG / 29 会議が2月8日～10日の間スイス国ジュネーブのIATA本部にて開催され、問題点解決に向けた

議論、並びにWSGの改定に向けた集中審議を行なった。

3 . APACA (アジア太平洋発着調整事務局連合) の設立

オーストラリア・日本が中心となってアジア太平洋地区における発着調整事務局の連合設立の働きかけを行ってきたが、SC127会議において正式に組織が発足することとなった。この連合の名称は、Asia/Pacific Airport Coordinators Association (APACA)と称し、発着調整組織の国際的会議体であるWWACGのアジア太平洋地域を代表する下部機関として活動することとなった。APACAの正式発足に伴い選挙が行なわれ、議長はオーストラリア、副議長はインドと日本(事務局)が務めることとなった。

今後、アジア太平洋地区に所在する発着調整事務局との間の情報交換、問題点の共有等を通じ、発着調整業務の中立性、公平性、透明性を確保するための方策について理解を深めていくこととしている。

4 . 国際線発着調整事務局の中立性等の推進

IATAのWSGには、国際線発着調整事務局の中立性、公平性、透明性等の確保に関するガイドラインが定められているが、当協会として更にこれらを推進するため、又アジア太平洋地域の主要メンバーとして下記に示すような種々の取り組みを行った。

- (1) アジアン・ブリーズ第9号(インドのバンガロール空港特集)を発刊した。(4月)
- (2) 東京国際空港(羽田)の国際化に関し、航空局、国際線発着調整事務局、国内線発着調整会議、東京空港事務所との間で、各月複数回の調整会議を実施した。(4月、5月)
- (3) アジアン・ブリーズ第10号(インドのムンバイ空港特集)を発刊した。(6月)
- (4) 外国航空会社の日本支社、本邦社に対して、SC126で行った航空局説明(成長戦略)と同様の内容で説明会を開催した。(6月)
- (5) アジアン・ブリーズ第11号(シンガポール・チャンギ空港特集)を発刊した。(8月)
- (6) IATAのSPWG, JSAG及びWWACG会議を当協会主催で航空会館にて開催した。(9月)
- (7) アジアン・ブリーズ第12号(インドのハイデラバード空港特集)を発刊した。(10月)
- (8) 東京国際空港(羽田)の国際線定期便が就航した。(10月)
- (9) 外国航空会社の日本支社、本邦社に対して、SC127で行った航空局説明(国際航空政策)と同様の内容で説明会を開催した。(11月)
- (10) アジアン・ブリーズ第13号(スリランカのコロombo空港特集)を発刊した。(12月)
- (11) 発着調整システム(SCORE)の上級研修を受講するため、当事務局からイギリスのACLに2名派遣した。(23年1月)
- (12) アジアン・ブリーズ第14号(ニュージーランドの空港特集)を発刊した。(23年2月)
- (13) 航空保安大学校へ講師を派遣し、これから全国各地に赴任していく航空管制官、航空管制運航情報官を対象として、業務概要の説明を行った。(23年2月)

5 . 日本乗り入れ航空会社数

現在、国際線発着調整事務局において、スケジュール調整を行っている日本乗り入れ航空会社数は、延べ76社であり空港毎に下表のとおりである。

地 域	成田国際空港	東京国際空港 (羽田)	関西国際空港
日本	6	7	4
北米(カナダ、メキシコ含)	8	4	5
欧州	16	1	6
アジア・オセアニア、南太平洋	28	13	35
その他(中東、アフリカ等)	6	0	4
合 計	64	25	54

. 基本財産運用事業

1 . 会館運営活動

(1) 航空会館のテナント貸室事業

日頃寄せられるテナントからのご意見に対して、安全・衛生的、快適に利用出来るように日々のきめ細かな管理・運営に努めた。

また、12月末に1階テナントのH I Sが退去した。その後の新規入居に関して2月に某社と入居に向けての交渉を開始した。

その他の賃貸スペースに変更は無かった。

(2) 貸し会議室事業

長期化する日本経済の低迷ならびに都内に貸会議室が急増している事に加え、3月の震災の影響により売上予算を確保する事ができなかった。

これまで長年会館の喫茶業務を担ってきた業者が12月で閉店となったため、代わりとなる新規業者を選定し、新規オペレーションを1月より開始した。

貸会議室としての商品価値を維持し、顧客満足や営業力の向上をすべく、以下の項目について見直しや具体案の検討、改善を行った。

備 品：可動式プロジェクターの入替え、無線LAN導入の具体案検討

システム：サーバー更新、改修プログラムの具体案検討

設 備：喫煙コーナー設置の具体案検討、5階フロア電源増強の具体案検討、空調設備改修の具体案検討、放送設備の点検と改修

W e b：全面改訂の具体案検討

(3) 航空会館建物の維持管理

今年度は大きな工事の実施はなかったが、冷温水発生機の溶接補修、連結送水管耐圧試験（3年毎実施、法定）、消防設備改修工事など、既存設備のメンテナンスを中心に実施した。

また、毎年階毎に順次実施してきたタイルカーペットの張替え工事を今年度は4階の廊下及びエレベーターホールに実施した。

・航空クラブ

広く航空に携わる人々を中心に設立された航空クラブは発足から32年目を迎えた。

本年度の会員動向は、積極的な勧誘策を実施したが、一方で、ご高齢の会員の退会も続出しその結果会員数は減少した。

年度末現在の会員数は633名となり、前年比9%程度の減少となった。

航空クラブの活動としては、与謝野 馨氏、永山久夫氏を講師とし卓話会を2回及び航空局長による新春卓話会を開催した。また、9月、11月には機内食工場の見学会を実施した。

各同好会（俳句・囲碁・太極拳・書道・写真）は、それぞれ航空会館会議室を利用して毎月、定例会や大会を開催し、会員相互の親睦と啓発に努めた。

機関誌「航空クラブニュース」は、従前どおり年4回定期的に刊行し、卓話会の内容や会員紹介や各同好会の活動紹介などを掲載し、会員に情報を提供した。

会員とその家族のための福利厚生施策として設置された「会員特別割引」制度については、発足4年を経過し大手航空会社をはじめ各企業の協賛を頂き、更に充実した内容となっている。

会員数並びに活動実績は、次の通り。

(1) 会員数（平成23年3月31日現在）

	東京	地方	計
個人会員	111	20	131
推薦会員	120	17	137
特別会員	97	3	100
特別法人会員	4	1	5
合計	332	41	373

(2) 定例卓話会

開催日	テーマ	講師(敬称略)	参加者
6月 7日	日本の政治の現状	衆議院議員 与謝野 馨	230名
10月20日	戦国武将と食生活	食文化史研究家 永山 久夫	85名
1月13日	航空行政の現状と展望	国土交通省 航空局長 本田 勝	210名

(3) 機内食工場見学会

開催日	見学場所	参加者数
9月14日	A N A ケータリングサービス(東京国際空港)	24名
11月11日	ティーエフケー本社(成田国際空港)	19名

(4) 航空クラブニュース

発行号	発行月
104	平成22年 4月
105	平成22年 7月
106	平成22年10月
107	平成23年 1月

別	表
---	---

別表 1

(1) 冊子版「航空と文化」 101～102号掲載内容

分野	タイトル	執筆者・取材対象	掲載号
特集	空港と地方路線 わが国の空港整備100年雑感	(株)日本空港コンサルタンツ 会長 小坂英治	101
	欧米における地方路線維持のための制度 わが国への示唆	(財)日本航空協会 橋本安男	101
	航空の安全 ~われわれは何を学んだか~	ノンフィクション作家 柳田邦男	102
航空輸送	ロシアの管制事情	元 在ハンガリー日本国大使館員 伊地知恵	102
宇宙開発	最近の宇宙開発の話題から	KU-MA(子供・宇宙・未来の会)会長 (独)宇宙航空研究開発機構技術参 的川泰宣	101
	第4回宇宙旅行シンポジウム	編集部	102
イベント	初飛行100周年記念式典	編集部	102
航空 スポーツ	ウェークフィールド杯の重さ	日本模型航空連盟 大村和敏	101
	スカイ・レジャー・ジャパン'10 in 福井	(財)日本航空協会 航空スポーツ室	102
若年啓発	2010青少年航空宇宙絵画国際コンテスト入賞作品	編集部	101
	2010FAIヤングアーティストコンテスト	編集部	101
歴史の 証言	40年を迎えた滑空機耐空検査員制度(その25)	元滑空機耐空検査員事務局次長 滑空機耐空検査員 佐藤一郎	101
航空遺産	展示会「知られざる回転翼航空機の開発 日本初 の本格的ヘリコプター特殊蝶番試作レ号」を開催 しました	(財)日本航空協会 航空遺産継承基金事務局	101
	「日本初の動力飛行をした飛行機のプロペラ」を 新たに重要航空遺産の認定しました	(財)日本航空協会 航空遺産継承基金事務局	102
航空史	航空宇宙記念碑の日本地図 (15) 航空記念碑初ものづくり	編集部	101
	航空宇宙記念碑の日本地図 (16) 続 航空記念碑初ものづくり	編集部	102
報告	日本航空協会 事業報告と事業計画 平成22年度「空の日」航空関係者表彰 受賞おめでとうございます	編集部 編集部	101
挨拶	新年のご挨拶	(財)日本航空協会会長 近藤秋男	102

(敬称略)

(2) W E B 版「航空と文化」 平成 2 2 年度の掲載内容

掲載日	タイトル	執筆者
2010.04.15	飛行艇パイロットの回想 -横浜から南太平洋へ-(9) ウェーキ島一番乗り	越田 利成
"	歴史にみる模型飛行機の顔さまざま(2) 英国紳士の遊び	大村 和敏
2010.05.15	飛行艇パイロットの回想 -横浜から南太平洋へ-(10) 赤道直下の不時着	越田 利成
"	歴史にみる模型飛行機の顔さまざま(3) 全体主義国家の学童教材	大村 和敏
"	日本・ハンガリー航空協定の思い出	伊地知 恵
2010.06.15	飛行艇パイロットの回想 -横浜から南太平洋へ-(11) 九七式大艇奇跡の生還	越田 利成
"	歴史にみる模型飛行機の顔さまざま(4) 国際競技種目(1928 -)	大村 和敏
"	カティンへ ポーランド大統領機墜落事故の関連要因について	伊地知 恵
2010.07.15	飛行艇パイロットの回想 -横浜から南太平洋へ-(12) 地獄娯楽紙一重	越田 利成
"	歴史にみる模型飛行機の顔さまざま(5) バルサ革命:模型飛行機は特殊な材による特殊な構築物である (1930年頃)	大村 和敏
2010.08.15	飛行艇パイロットの回想 -横浜から南太平洋へ-(13) 九七式大艇還らず	越田 利成
"	歴史にみる模型飛行機の顔さまざま(6) 室内機	大村 和敏
2010.09.15	飛行艇パイロットの回想 -横浜から南太平洋へ-(14) ダバオ救出大作戦	越田 利成
"	歴史にみる模型飛行機の顔さまざま(7) 模型航空力学の登場	大村 和敏
2010.10.15	飛行艇パイロットの回想 -横浜から南太平洋へ-(15) 二式大艇バラバラ事件	越田 利成
"	歴史にみる模型航空機の顔さまざま(8) 模型飛行機はホビーとスポーツの複合活動	大村 和敏
2010.11.15	飛行艇パイロットの回想 -横浜から南太平洋へ-(16) 決死の大飛行	越田 利成
"	歴史にみる模型航空機の顔さまざま(9) スケールモデル	大村 和敏

(敬称略)

別表 2

2010年航空スポーツ団体別活動状況

2010年12月31日現在

実施種目	日本気球連盟	エクスベリメンタル航空連盟	(社)日本航空操縦士協会	(社)日本滑空協会	日本模型航空連盟	パラシューティング	(社)日本ハング・パラグライダー連盟	(NPO)日本マイクロライト航空連盟	日本パラモーター協会
熱気球 ガス気球 (熱気球型飛行船)	約1,546人	自作航空機 ・固定翼機 ・ヘリコプター ・ジャイロプレーン	飛行機 ヘリコプター	滑空機 (グライダー) 動力滑空機 (モーターグライダー)	模型航空機 ・ゴム動力機 ・エンジン機 ・グライダー ・ヘリコプター他 ・模型ロケット	パラシューティング ・アキユラシー ・フォーメーション スカイダイビング ・フリースタイル ・フリーフライング	・ハンググライダー ・パラグライダー (補助動力を含む)	マイクロライト(NL) (超軽量動力機) ・舵面操縦型 ・体重移動操縦型 ・パラシュート型	・パラモーター (RPF1、RPF2) ・ワードルグライダー (RIWF1、RIWF2)
会員数	1,546人	240人	約600人	628人	7,130人	-	9,845人	630人	1,203人
愛好者全体数	約10,000人	エクスベリメンタル航空連盟への加盟クラブ数からの推定人数 約2,900人 (内ジャイロプレーン210人)	操縦士協会会員(約6300名)のうち自家用操縦士技能証明所有者の人数 約2,700人	日本滑空協会会員のうち個人会員の合計人数 約2,000人	連盟の正会員及び準会員の合計人数 約80,000人	-	過去からの更新・新規登録による推定人数 約30,000人	JML会員登録者数 約2,000人	JPIA会員登録者数 約3,000人
機体数	399機	272機	約590機	約350機	不明	-	不明	2,090機	約1,200機
活動状況	上記は有効登録機数。気球連盟への登録機数は1,412機	国土交通省への登録機数 固定翼機及びヘリコプター 109機 ジャイロプレーン 163機	飛行機 約380機 ヘリコプター 約210機	上記は航空検査を受けた機数(2005年末現在)航空局への登録機数は672機(2009年9月30日現在)	模型の種類が多いので推定困難。 国際級操縦機はR/C機が主体で概略機数として2,000-3,000機とみられる。	-	安全性委員会への型式登録数(累計) ・パラモーター 370 ・パラグライダー 1,305	国土交通省への登録機数 舵面操縦型 1,609機 体重移動操縦型 372機 パラシュート型 109機	JPIA会員数からの推定機数 ・パラモーター 1,200機 ・ワードルグライダー 5-10機

(財)日本航空協会認定団体の活動状況です。
 会員数は、平成13年からFAIへ報告する実活動者に合わせて有効会員数とした。
 (: 現在認定締結団体なし)

別表3

1) 日本で開催した国際競技会 (CAT - 1)

種 目 (名 称)	選手権者名	開 催 日	場 所	参加国/数	日本人成績
1. 熱気球 2010とちぎ熱気球 インターナショナル チャンピオンシップ	児玉 義美 (日本)	2010.11.19 ~23	栃木県 宇都宮市 茂木町 芳賀町	15カ国 37機/チーム	1~3, 6~8, 10~12, 14~ 17, 19, 22, 23, 25, 26, 28

2) 公認した日本選手権

種 目 (名 称)	選手権者名	開 催 日	場 所	参加数
1. 熱気球 平成22年度(第27回) 熱気球日本選手権	飯盛 一保	2010.11.02 ~08	佐賀県佐賀市 嘉瀬川河川敷	39機/ チーム
2. 模型航空機 F1A フリーフライト・グライダー F1B フリーフライト・ゴム動力機 F1C フリーフライト・エンジン機	熊井 恒雄 競技不成立 金川 茂	2010.10.29 ~31	千葉県旭市 干潟町万歳	11名 - 6名
F1D フリーフライト・室内機	檀上 彰宏	2010.10.03	長野県松本市 やまびこドーム	7名
F2B コントロールライン・曲技	村松 督浩	2010.09.03 ~05	岐阜県高山市 飛騨エアパーク	41名
F3A ラジオコントロール・曲技	音田 哲男	2010.09.08 ~12	富山県黒部市黒部川 新川ラジオ専用飛行場	40名
F3B ラジオコントロール グライダー	坂井 宏行	2010.09.10 ~12	兵庫県姫路市 的形模型グライダー場	39名
F3C ラジオコントロール ヘリコプター	伊藤 寛規	2010.10.07 ~10	栃木県宇都宮市 鬼怒グリーンパーク白沢RC	40名
F3D ラジオコントロール パイロンレーシング	中西 信明	2010.08.26 ~28	福島県福島市 福島スカイパーク	9名
F3J ラジオコントロール 手曳グライダー	小太刀 守	2010.10.23 ~24	埼玉県児玉郡 上里町模型グライダー場	7名
F3K ラジオコントロール 手投げグライダー	長野 佳祐	2010.11.27 ~28	静岡県葵区牛妻 安部川SFC飛行場	18名
F5B ラジオコントロール 電動グライダー	坂井 宏行	2010.03.06 ~07	兵庫県姫路市 的形模型グライダー場	11名

種 目 (名 称)	選手権者名	開 催 日	場 所	参加数
3 . ハング・パラグライダー Class (ハンググライダー) 総合 女子	大門 浩二 磯本 容子	2010.03.18 ~ 22	茨城県石岡市 板敷山エリア	48名 9名
Class (パラグライダー) 総合 女子	不成立 (成山 基義) (平木 啓子)	2010.11.19 ~ 23	和歌山県紀ノ川エリア	59名 12名
(パラ・アキュラシー) 総合 女子	山谷 武繁 稲田 瑞穂	2010.10.16 ~ 17	宮城県仙台市 泉ヶ丘スキー場他	22名 8名
4 . マイクロライト パラモーター	五十嵐 亮弥	2010.10.09 ~ 11	秋田県南秋田郡 大瀧村	60名

3) 後援した競技会

種 目 (名 称)	選手権者名	開 催 日	場 所	参加数
1 . 熱気球 2010熱気球ホンダ・グランプリ	総合1位 BUMAバルーンチーム (パイロット 藤田 雄大)			
第1戦 渡良瀬バルーンレース2010		2010.04.09 ~ 11	栃木県藤岡町 渡良瀬遊水地周辺	26機
第2戦 佐久バルーン フェスティバル2010		2010.05.03 ~ 05	長野県佐久市 千曲川スポーツ 交流広場	32機
第3戦 鈴鹿バルーン フェスティバル2010		2010.09.18 ~ 20	三重県鈴鹿市 鈴鹿川河川敷、 鈴鹿サーキット	32機
第4戦 2010佐賀インターナショナル バルーンフェスタ		2010.11.02 ~ 03	佐賀県佐賀市 嘉瀬川河川敷	23機
第5戦 2010とちぎ熱気球 インターナショナル チャンピオンシップ		2010.11.18 ~ 23	栃木県 宇都宮市、茂木町	24機
第37回 北海道バルーン フェスティバル	(口蹄疫のため 競技中止)	2010.08.13 ~ 15	北海道河東郡上士幌町 航空公園と近隣町村	
第35回 おぢや風船一揆	池田 啓亮	2011.02.26 ~ 27	新潟県小千谷市西中	33機

種 目 (名 称)	選手権者名	開 催 日	場 所	参加数
2 . 滑空機 (グライダー) 第51回 全日本学生グライダー競技 選手権大会	地震の為、大会不成立	2011.03.05 ~ 13	埼玉県熊谷市 妻沼滑空場	17校 20チーム 49名
第50回 全国七大学総合体育大会 グライダー競技の部	個人 波多野高斗 (名古屋大学) 団体 名古屋大学	2011.02.23 ~ 03.01	千葉県関宿町 NPO関宿滑空場	7校 55名
第13回 東京六大学対抗 グライダー競技会	個人 後藤 真徹 (慶應大学) 団体 慶應義塾大学	2010.08.21 ~ 28	埼玉県熊谷市 妻沼滑空場	6校 16名

4) 参加した世界選手権

種 目 (名 称)	選手権者名	開 催 日	場 所	参加国	日本人 成績
1 . 熱気球 第19熱気球世界選手権	PETREHN, John(USA)	2010.10.02 ~ 10	Debrecen ハンガリー	33カ国 103機	16, 31, 42, 56, 69, 86, 105
2 . エアロパティック 第9回アドバンスド曲技	個人 Baptiste Vignes (FRA) 団体 フランス	2010.08.05 ~ 15	Rodom ポーランド	23カ国 82名	54
3 . 滑空機 (グライダー) 第31回滑空世界選手権	個人 15m Ghiorzo Stefano (Italy) 18m Nieradka Zbigniew (Poland) Open Sommer Michael (Germany) 団体 ポーランド	2010.07.24 ~ 08.06	Szeged ハンガリー	33カ国 143名 15m:49名 18m:51名 Open: 43名	18m:24
4 . 模型航空機 F1D フリーフライト・ 室内機	個人 Ivan Treger (SVK) 団体 アメリカ	2010.08.09 ~ 14	Belgrade セルビア	13カ国 35名	28, 34 団体12
F2B コントロールライン・ 曲技	個人 Kornmeier Richard (GER) 団体 中国	2010.07.23 ~ 08.01	Gyula ハンガリー	29カ国 80名	7, 12, 20 ジュニア6 団体2
F3J ラジオコントロール・ 手曳グライダー	個人 Perkins Daryl (USA) 団体 ニューージーランド	2010.07.31 ~ 08.08	Dole -TavauxAirport フランス	29カ国 85名	52, 55, 67 団体20
F5B ラジオコントロール・ 電動グライダー	個人 Frattini Remo (ITA) 団体 スイス	2010.08.19 ~ 25	Indiana Muncie アメリカ	13カ国 37名	26, 27, 36 団体10

種 目 (名 称)	選手権者名	開 催 日	場 所	参加国	日本人成績
S1A スペースモデル 高度	個人 Cuden Joze (SLO) 団体 スロベニア	2010.08.21 ~ 28	Irig セルビア	16カ国 44名	13, 28, 33 団体8
S3A スペースモデル パラシュート 滞空時間	個人 Mazzaracchio Antonio (ITA) 団体 セルビア	"	"	22カ国 64名	10, 24, 53 団体8
S4A スペースモデル ブーストライダー 滞空時間	個人 Jucevicius Gintaras (LTU) 団体 ロシア	"	"	22カ国 64名	35, 53, 58 団体19
S5C スペースモデル スケール 高度	個人 Korobeinikov Evgneiy (RUS) 団体 ロシア	"	"	13カ国 31名	5, 8, 23 団体5
S6A スペースモデル ストリーマー 滞空時間	個人 Uhlig Stephanie (GER) 団体 セルビア	"	"	22カ国 64名	5, 28, 48 団体6
S9A スペースモデル ジャイロコプター 滞空時間	個人 Mazzaracchio Antonio (ITA) 団体 ロシア	"	"	22カ国 64名	55, 60, 61 団体22
5 . ハング・パラグライダー Class (HG)女子 Class (HG)総合	不成立 不成立	2010.05.08 ~ 22	Schwangau ドイツ		

5) 参加した国際競技会

種 目 (名 称)	選手権者名	開 催 日	場 所	参加国	日本人成績
1 . 熱気球 ゴードン・ベネット	Kurt Frieden Pascal Witpraechtiger (スイス)	2010.09.25 ~ 10.02	Bristol 英国	11カ国 40名	18
2 . 模型航空機 2010アジアオセアニア 模型航空大陸選手権					
F3C ラジオコントロール ヘリコプター	個人 橋本 学 (日本) 団体 日本	2010.10.17 ~ 23	Taichung 台湾	5カ国 14名	1, 2, 3, 4
F3A ラジオコントロール 曲技	個人 音田 哲男 (日本) 団体 日本	2010.09.19 ~ 25	Bacolod City フィリピン	8カ国 26名	1, 2, 3, 4
3 . ハング・パラグライダー 第 2 回パラグライディング アジア選手権	個人 Chikyong Ha (韓国) 女子 Junghun Park (韓国) 団体 韓国	2010.05.01 ~ 09	徳島県・ にし阿波 (日本)		団体2 個人3 女子2, 3

別表4

1) 記録の公認

1. 世界記録の認定 (F A I)

種 目	氏 名	記 録	日 時 ・ 場 所
模型航空機 F 1 M室内模型初心者クラス型 (117a 天井高8m未満)	檀上 彰宏	17分39秒	2010.10.08 東京都葛飾区 水元体育館

2. 日本記録の公認

種 目	氏 名	記 録	日 時 ・ 場 所
熱気球 A X - 4級 一般 距離	倉重 安見	26.57km	2011.01.09 群馬県邑楽郡～栃木県小山市
滑空機 D O級 女子 100km三角コース速度	廣常 朱美	138.84km	2009.12.30 オーストラリア ワイケリー飛行場
滑空機 D O級 一般 自由往復距離	市川 展	908.35km	2010.01.26 オーストラリア ナロマイン飛行場
滑空機 D O級 一般 自由三角コース距離	梅谷 賢三	1047.77km	2010.12.09 ナミビア共和国 ビッテルバッサー滑空場
模型航空機 F 1 M室内模型初心者クラス型 (117a 天井高8m未満)	檀上 彰宏	17分39秒	2010.10.08 東京都葛飾区 水元体育館

* 世界/日本記録は、平成22年度に記録認定したものを記載している。

2) F A I スポーツ・ライセンス (平成22年1月1日～12月31日)

種 目	F A I スポーツ・ライセンス発行			有効登録者数 (12月31日現在)
	新規発行	更 新	合 計	
熱 気 球	11	16	27	105
人 力 飛 行 機	3	2	5	7
滑 空 機	3	5	8	190
模 型 航 空 機	16	20	36	113
パラシューティング	0	2	2	17
ハンググライダー (含パラグライダー)	32	32	64	301
超 軽 量 動 力 機	1	2	3	9
飛 行 機	0	0	0	2
その他 (Rotor craft)	0	0	0	0
合 計	66	79	145	744

3) 資格証の発行数(平成22年1月1日~12月31日)

1. 滑空機

種 目	種 目	件 数
1. F A I 国際滑空記章 ()内は、内数 平成22年4月1日より、認定証書のみ発行し、バッジは申請者の選択性とした。	銀 章(認定証のみ)	5(3)
	金 章(認定証のみ)	3(3)
	ダイヤモンド距離章	2
	ダイヤモンド高度章	0
	ダイヤモンド目的地章	1
	3ダイヤモンド章	0
	750km章(認定証のみ)	3(3)
	1,000km以上章	0
2. 飛行成績証明書 記章発行(単一科目達成時及び複数科目の最終項目達成時)を除く。	滞 空 5時間(5h)	9
	距 離 50km(5K)	0
	高 度 1,000m(1M)	3
	距 離 300km(3K)	0
	高 度 3,000m(3M)	1
	目的地 300km(3D)	1
	高 度 5,000m(5M)	0
	距 離 500km(5D)	0
	距 離 750km(7D)	0
	距 離 1,000km(10D)	0
距 離 1,500km(15D)	0	

2. 模型航空機

種 目	種 目	件 数
1. 技能証 R/C ヘリコプター	A 級	24
	B 級	51
	C 級	30
	D 級	2
	E 級	1
C/L 飛行機	A 級	1
	B 級	1
	C 級	1
	D 級	5

名 称	開 催 日	場 所	参加人数 (講師)
こども模型飛行機教室 (全国29箇所、参加者数1,280名) *参加者数は子供のみ	2010.04.04	パークサイド亀島 集会場 / 東京都江東区	7名 (渡久地政光)
	2010.04.25 ~26	四万十川RC水上機フェスティバル会場 / 高知県四万十市	120名 (長谷川克)
	2010.06.05	渋谷区立上原小学校 / 東京都渋谷区	26名 (和田光信)
	2010.07.22	大井ふ頭中央海浜公園 / 東京都品川区	84名 (山科達雄)
	2010.06.05	渋谷区立上原小学校 / 東京都渋谷区	26名 (和田光信)
	2010.07.29	早島小学校 / 岡山県都窪郡	40名 (渡久地政光)
	2010.07.29	横浜国立永野小学校 / 神奈川県横浜市	14名 (中澤正雄)
	2010.08.06	目黒区立鷹番小学校 / 東京都目黒区	31名 (渡久地政光)
	2010.08.18、 08.20	羽田JAL会議室、シミュレータ、 機体整備工場見学 / 東京都大田区	21名 (金川茂)
	2010.08.21	東本郷小学校コミュニティハウス / 神奈川県緑区	13名 (中澤正雄)
	2010.08.22	笠岡農道離着陸場 / 岡山県笠岡市	108名 (吉岡嗣貴)
	2010.08.22	石川県立航空プラザ / 石川県小松市	54名 (吉永英明)
	2010.08.28	添田オークホール~ サンスポグラウンド / 福岡県田川郡	54名 (安藤由隆)
	2010.09.11	伊丹市立総合教育センター / 兵庫県伊丹市	25名 (鷲見健次)
	2010.09.12	R / C 曲技(F3A) 日本選手権 / 富山県黒部市	雨天中止 (金川茂)
	2010.09.19	航空科学博物館 / 千葉県成田市	21名 (山科達雄)
	2010.09.19	よこはま県民サポートセンター ~ 岸根公園 / 神奈川県横浜市	30名 (中澤正雄)
	2010.09.23	熊本県人吉市役所 / 熊本県人吉市	35名 (松島安則)

名 称	開 催 日	場 所	参加人数 (講師)
	2010.10.11	東庄RC航空ショー2010 / 千葉県東庄町	50名 (塙隆之)
	2010.10.16 ~17	全日本模型ホビーショー / 千葉県千葉市	81名 (指導員のみ)
	2010.10.30	福島市立佐倉小学校 / 福島県福島市	35名 (山科達雄)
	2010.11.03	気仙沼市総合体育館 / 宮城県気仙沼	20名 (鈴木淳雄)
	2010.11.21	とちぎ熱気球大会 / 栃木県宇都宮市	135名 (山科達雄)
	2010.12.14	後藤寺小学校 / 福岡県田川市	54名 (安藤由隆)
	2010.12.18	横浜市立南本宿小学校 / 神奈川県横浜市	33名 (中澤正雄)
	2011.01.22	江戸川区立鹿骨東小学校 / 東京都江戸川区	87名 (岡田英二、 渡久地政光、 山科達雄)
	2011.02.20	谷中コミュニティセンター から初音の森 / 東京都台東区	36名 (金川茂)
	2011.03.02	国分寺市立教育センター / 東京都国分寺市	14名 (山科達雄)
	2011.03.03	添田町立添田小学校 / 福岡県田川郡	60名 (安藤由隆、 渡久地政光)
	2011.03.19 ~20	中部国際空港 / 愛知県常滑市	地震の影響 の為、中止

2) 共催事業：主催実行委員会構成団体の一員として参画

名 称	開 催 日	場 所	備 考
スカイ・レジャー・ジャパン '10 in 福井	2010.09.25 ~26	福井県坂井市 福井空港	来場者数 33,000名
第16回 スカイスポーツ シンポジウム (社)日本航空宇宙学会主催	2010.12.04	日本大学理工学部駿河台校舎	105名 (事務局含)

3) 後援事業

名 称	開 催 日	場 所	備 考
第8回 四万十川ラジコン水上機フェスティバル	2010.04.24 ~25	高知県四万十市鍋島 四万十川ポートコース	来場者数 7,000名
第35回 二宮忠八翁飛行記念大会	2010.04.29	愛媛県八幡浜市 市民スポーツパーク グラウンド	来場者数 1,500名
第33回 鳥人間コンテスト選手権大会	2010.07.24 ~25	滋賀県彦根市 松原水泳場周辺	
コウノトリ但馬空港フェスティバル' 10	2010.07.24 ~25	兵庫県豊岡市 コウノトリ但馬空港	来場者数 32,000名
2010 北海道スカイスポーツフェア イン 北見	2010.08.29	北見地区 農道離着陸場	来場者数 2,600名
第1回 高校生夏休みグライダー教室	2010.08.05 ~08	埼玉県大利根町 読売大利根滑空場	受講者数 5名
第24回 R C 航空ページェント	2010.11.03	群馬県太田市 尾島 R C スカイポート	来場者数 30,000名
第3回 ラジコン飛行機の世界展	2011.03.19 ~21	中部国際空港	地震の影響 の為、中止

4) 協力事業

名 称	開 催 日	場 所	備 考
「2010 関宿滑空場まつり」	2010.05.30	千葉県野田市 NPO法人 関宿滑空場	参加者数 約150名
「空まつり2010」	2010.11.07	千葉県野田市木野崎 野田市スポーツ公園	来場者数 約900名

別表7

平成21年度 日本航空協会賞 受賞者一覧

1. 航空亀齡賞

< 永年にわたり航空の発展に尽力され、且つ数え年90歳になられた方に長寿を祝福する賞 >

<p>おぐらひろお 小倉弘雄氏 (95歳)</p>	<p>電力会社の送電線建設工事におけるヘリコプターの延線作業（鉄塔間に電線を渡す作業）において、氏は延線機という独自装置を開発することにより、従来の危険で非効率な方法からより安全で効率的な作業を可能とした。</p> <p>〔元朝日ヘリコプター(株)取締役 朝日航洋(株)推薦〕</p>
<p>さいとういちろう 斉藤一郎氏 (90歳)</p>	<p>航空身体検査基準のあり方について、コンピューターによるパイロットの航空衛生管理システムを設計するなど、航空医学管理の基盤確立に貢献するとともに、わが国の宇宙開発における日本人宇宙飛行士の選抜基準、訓練方法、健康管理体制に関する調査研究に貢献した。</p> <p>〔元航空自衛隊航空医学実験隊長 日本宇宙航空環境医学会推薦〕</p>

2. 航空功績賞

< 航空に関する文化、科学技術および事業等の発展に著しく寄与された方又はグループに贈る賞 >

<p>うちむらのぶゆき 内村信行氏 (89歳)</p>	<p>氏は運輸省航空局長、事務次官として航空行政に多大な功績を残された。その後も航空交通管制協会の会長として、国内外の航空交通管制システムの調査研究ならびに発展途上国の管制官育成に積極的に取り組み、当該国の航空交通の発展に寄与した。</p> <p>また、全国空港給油事業連合会（現全国空港給油事業協会）の会長として空港給油の高速化と安全向上に貢献した。</p> <p>〔元運輸省事務次官、元三愛石油（株）代表取締役社長 （社）全国空港給油事業協会（財）航空交通管制協会推薦〕</p>
<p>かさまつまさしち 笠松佐七氏 (87歳)</p>	<p>大阪基地の初代査察室長を務め、全日空の安全運航の訓練体系構築に貢献した。また、取締役就任中にはB767機種選定にも尽力し、円滑な導入とその後の安全運航に尽力した。</p> <p>〔元全日本空輸（株）常務取締役航務本部長 全日本空輸（株）推薦〕</p>
<p>まえざわじゆんいち 前沢淳一氏 (66歳)</p>	<p>名古屋航空宇宙システム製作所長時代に外国の航空機製造会社との共同開発において様々な開発手法を国内に導入し、開発期間の短縮化を成功させた。ボーイングとの767・777型機の共同事業においては日本側の代表を務めるなど、わが国航空機事業の拡大・発展に貢献した。</p> <p>〔元三菱重工業（株）取締役副社長（社）日本航空宇宙工業会 推薦〕</p>
<p>まつきまさかつ 松木正勝氏 (87歳)</p>	<p>戦後の航空解禁後、航空技術研究所（S38航空宇宙技術研究所、H15宇宙航空研究開発機構に変更）の原動機研究員としてジェットエンジンの研究に取り組み、氏の指揮下で産学協同により高性能のジェットエンジン（FJR710）を開発した。後にそれを5カ国共同開発のV2500エンジンへと発展させるなど、わが国航空機エンジンの開発に大きな功績を残した。</p> <p>〔元航空宇宙技術研究所 科学研究官、日本工業大学 名誉教授 （独）宇宙航空研究開発機構 推薦〕</p>

3. 航空文化賞
該当者なし

4. 航空特別賞

< 社会的に航空の発展、思想の普及啓発に特に顕著な貢献をした方、またはグループに贈る賞 >

<p>認定NPO法人救急ヘリ病院ネットワーク くしまつたかじ (理事長 國松孝次氏)</p>	<p>同法人では、平成11年の設立以来救急ヘリについて各国の先進事例の調査および救命効果の研究に取り組むとともに、その効果について広く社会一般への啓蒙活動に努めている。これらの活動が2007年の「ドクターヘリ特別措置法」の成立や2009年の運航費に特別交付税交付金制度を適用する予算措置の実現に寄与するなど、救急ヘリの普及振興に大きな貢献をしている。 〔日本航空協会 推薦〕</p>
--	--

5. 空の夢賞

< 航空、宇宙に対する夢や希望を与え、または明るい話題を提供した者またはグループに贈る賞 >

<p>わか た こう いち 若 田 光 一 氏 (47歳)</p>	<p>氏は、NASAより日本人初のミッションスペシャリスト(搭乗運用技術者)に認定され、3度の宇宙飛行ミッションを行った。 氏は、ロボットアームの高い操作技術を持ち、国際宇宙ステーションの組立などの重責を見事に完遂し、また、日本人として初の宇宙長期滞在を達成するなど、わが国の有人宇宙開発に多大な貢献をされ、その成功は宇宙に対する夢や話題の提供に大きく寄与した。 〔宇宙航空研究開発機構職員宇宙飛行士 日本航空協会推薦〕</p>
---	---

6. 航空スポーツ賞

< 航空スポーツのFAI世界記録を樹立し、又は同世界選手権者となった個人又はグループに贈る賞 >

<p>だんじょう あき ひろ 檀 上 彰 宏 氏 (48歳)</p>	<p>模型航空機による滞空時間世界記録を2件樹立(平成21年7月、10月) F1Mフリーフライト室内模型初心者クラス(天井高8m以上15m未満) 19分39秒 F1Mフリーフライト室内模型初心者クラス(天井高15m以上30m未満) 21分1秒</p>
<p>いし い みつる 石 井 満 氏 (50歳)</p>	<p>模型航空機による滞空時間世界記録を樹立(平成21年10月) F1Nフリーフライト室内ハンドランチグライダー(天井高15m以上30m未満)1分32.2秒</p>

年齢は受賞時年齢

. 国際航空連盟 (FAI) 賞伝達

1. オノラリー グループ ディプロマ(Honorary Group Diploma)

< 前年又は前年までの活動により航空や宇宙飛行の発展に多大な貢献をした団体に授与する賞 >

<p>佐賀バルーンフェスタ組織委員会</p>	<p>1980年に佐賀県内の熱気球愛好家の組織として結成され、毎年「佐賀インターナショナルバルーンフェスタ」を主催し、大会の競技運営に尽力し、スカイスポーツとしての熱気球の発展に大きな役割を果たしてきた。 〔日本気球連盟 推薦〕</p>
<p>佐賀市</p>	<p>佐賀バルーンフェスタ組織委員会と連携し、競技を除く会場整理や交通対策を担当し、円滑な大会運営に尽力した。 〔日本気球連盟 推薦〕</p>

2. ポール ティサンディエ ディプロマ(The Paul Tissandier Diploma)

< 団体組織等で指導的役割を果たし、航空スポーツの発展に顕著な業績のあった個人に贈る賞 >

さか た しげ お 氏 (5 5 歳)	長年、日本気球連盟のインストラクター、インスペクター（機体チェック担当者）および安全委員長として飛行の安全性向上に多大な貢献をした。 [日本気球連盟 推薦]
さか い たか ゆき 氏 (7 0 歳)	日本模型航空連盟のRCヘリコプター委員会の委員長および委員として技術向上に務め、革新的な技術の開発により発展に多大な貢献をした。 [日本模型航空連盟 推薦]
まつ お えつ し 氏 (享年 5 6 歳)	ハンググライディング、パラグライディング、パラモーター等多くの分野で精力的な活動を続け、国内のみならずFAI活動を通じて諸外国での航空スポーツの普及振興に多大な貢献をした。 [日本パラモーター協会 推薦]

3. フランク エリング ディプロマ(Frank Ehling Diploma)

< 模型航空機を通じて航空の普及・発展に顕著な功績を成し遂げた組織あるいは個人に贈る賞 >

まつ きか けい たろう 氏 (6 4 歳)	RCヘリコプターの開発および普及に尽力し、国内外の愛好家および競技人口の増大に貢献するとともに、競技専用機の開発により世界選手権における日本人選手の活躍に多大な貢献をした。 [日本模型航空連盟推薦]
-----------------------------	--

4. コリブリ ディプロマ(Colibri Diploma)

< マイクロライトの発展に顕著な功績を示した個人に対して贈る賞 >

まつ お えつ し 氏 (享年 5 6 歳)	FAI国際マイクロライト委員会の日本代表委員として委員会活動に積極的に取り組むとともに、アジア地域での航空スポーツ振興に多大な貢献をした。 [FAI国際マイクロライト委員会 推薦]
-----------------------------	---

5. エア・スポーツ・メダル(The FAI Air Sports Medal)

< 航空スポーツに関連した委員会業務、競技会運営、若年層の教育訓練等に顕著な功績や貢献があった個人又は団体に贈る賞 >

まつ もと えい いち 氏 (6 7 歳)	長年にわたり「会津塩川バルーンフェスティバル」実行委員会会長として大会運営に尽力するとともに、航空スポーツとしての熱気球の普及活動および地域振興に多大な貢献をした。 [日本気球連盟推薦]
の むら たつ お 氏 (6 0 歳)	AOPA-JAPAN理事として組織運営に尽力するとともに、自家用操縦士の安全意识の向上、技量維持、青少年の指導育成に多大な貢献をした。 [(社) 日本航空機操縦士協会 推薦]
すず き こう いち 氏 (6 6 歳)	学生グライダーパイロットの指導育成に尽力するとともに、(社)日本滑空協会理事および技能審査員として社会人パイロットの指導育成にも尽力した。 [(社) 日本滑空協会 推薦]
そう ま もと み 氏 (5 7 歳)	関東航空スポーツ協会会長、NPO法人日本マイクロライト航空連盟副理事長として組織の運営に尽力するとともに、競技会の開催に積極的に取り組み、航空スポーツの普及振興に多大な貢献をした。 [NPO法人日本マイクロライト航空連盟 推薦]

年齢は受賞時年齢